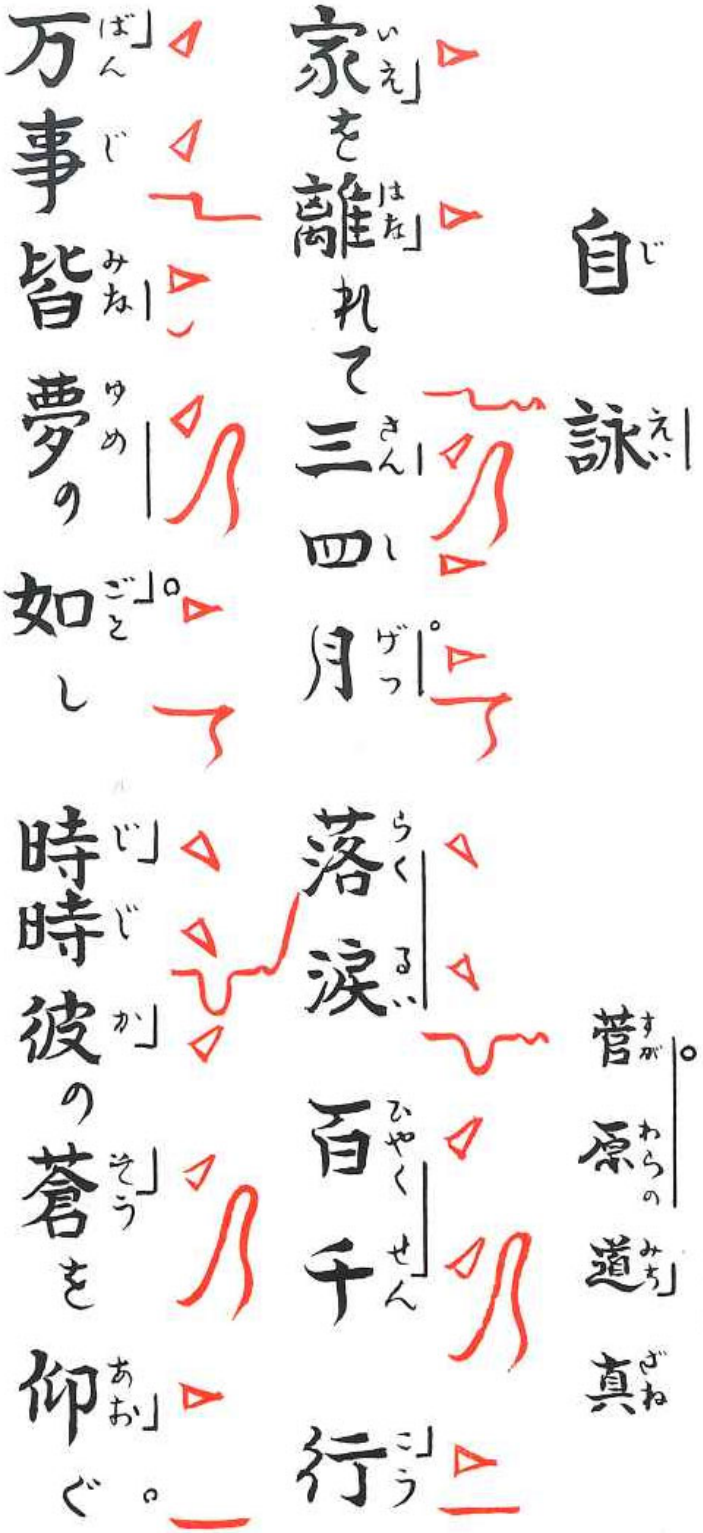

【作者】菅原道真（八四五～九〇三年）平安初期の公卿。学者。本名は三。幼名阿呼。菅公と称される。若年で詩歌を作り始め、神童の誉高く、やがて文章博士までになる。九〇一年、藤原時平の中傷によって大宰権帥に左遷。その地で亡くなる。後に、学問の神・天満天神として崇められる。遣唐使の廃止や、国風文化の振興に努める。

【語釈】＊自詠…自らをうたう。＊離家…故郷の家（家郷）を離れる。故郷を離れて旅立つ。　＊落涙…涙をこぼす。涙を流す。
＊萬事…すべてのこと。あらゆること。＊時時…たえず。いつも。また、しばしば。時々。

【通釈】故郷を離れて三、四ヶ月経ち、涙を数百～千以上も垂らした。すべての事がみな、夢のようである。絶えず、あの青空を仰ぎ見て歎きの言葉で問いかけている。